

全 員 協 議 会 記 録

令和5年8月17日(木)
10時00分～11時47分
全 員 協 議 会 室

【出席議員】

笹田議長、川神副議長
肥後議員、村木議員、大谷議員、三浦議員、沖田議員、村武議員、川上議員、
柳楽議員、串崎議員、小川議員、上野議員、布施議員、岡本議員、芦谷議員、
永見議員、佐々木議員、田畑議員、西田議員、牛尾議員

【執行部】

市長、副市長、教育長、総務部長、地域政策部長、都市建設部長、教育部長

【事務局】

下間局長、松井次長、大下書記

議 題

1 執行部報告事項

- (1) 令和5年7月8日から9日の大雨対応について (総務部)
- (2) 南極観測船「しらせ」入港歓迎事業について (総務部)
- (3) 浜田市行財政改革実施計画令和4年度実績及び令和5年度計画について (総務部)
- (4) 附属機関等の見直し(案)について (総務部)
- (5) 浜田市まちなか交流プラザの運用開始について (地域政策部)
- (6) 石見交通路線バス有福線の路線廃止に伴う再要望及び今後の対応について (地域政策部)
- (7) JR西浜田駅舎の更新、ホーム待合所の撤去等について (地域政策部)
- (8) 周布橋整備事業について (都市建設部)
- (9) 浜田郷土資料館建替え整備について (教育委員会)
- (10) その他

2 行政視察レポートについて

- (1) 総務文教委員会
- (2) 福祉環境委員会

3 議会改革に関する検討結果について

- (1) 第3回報告 議員選出監査委員の廃止について

4 地域井戸端会における回答について

5 その他

- (1) 自由討議について
- (2) その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 00 分 開議]

○笹田議長

ただいまから、令和5年8月17日の全員協議会を始める。それでは議題に入る。

1 執行部報告事項

(1) 令和5年7月8日から9日の大雨対応について

○笹田議長

総務部長。

○総務部長

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

○村木委員

自主避難所を開所した場合の、市の対応を教えてください。

○総務部長

基本的には自主避難所なので、その施設に職員が行って開けておくといったことはあるが、避難物資の輸送等はない。

○笹田議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(2) 南極観測船「しらせ」入港歓迎事業について

○笹田議長

総務部長。

○総務部長

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

(「なし」という声あり)

(3) 浜田市行財政改革実施計画令和4年度実績及び令和5年度計画について

○笹田議長

総務部長。

○総務部長

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

○川上議員

公共施設マネジメントについて。公共施設再配置計画実施の推進は評価Aとなっている。良くできたということなのだろう。しかし平成28年からの流れを見ていくと、本来の予定を毎年先送りしているのので、評価Aとは言えないと思うがどのように考えているか。

○総務部長

再配置計画そのものというのが、まず40年スパンで考えている。委員が言われるように先に先にとというのはいろいろなものの考え方で、例えば実際のところ償却期間などで割り振っているところもある。もっと先にできるものは先にするものもあれば、急ぐものであれば再投資するものもある。単年度でやっていく中では一応目的の数値にはまっているので、おおむね計画どおりということでA判定としている。

○川上議員

つまり、年度ごとの評価はAかもしれないが、全体的な評価はまだ言えないと。40年スパンのうち既に10年近くたっているのので、本来であれば10%程度の削減があっても良いと思うが。年度ごとに計画を再度見直され、それに対して評価されている。年度ごとに見直すことも必要かもしれないが、将来を見据えた計画を考えた場合は、その年度で押さえなければならぬところは押さえたほうが良いと思うが。

○総務部長

端的に言えば、例えば40年後にCやZというわけにはいかないのので、当然単年度ごとにやっていくものだと思う。単年度の部分と長いスパンでやっていく部分は併せて考えなくてはいけないし、40年の中でも今は第2期で、そういった区切りごとに中身についてはしっかり検討していく。また、単年度の軸と期ごとの軸は考えの中に持ちながら進めていくというのは、委員おっしゃるとおりだと思うので留意して進めていきたい。

○牛尾議員

定員適正化計画の評価がAになっている。最近よく、若い職員が退職する。最近では民間のほうが条件が良いので行政職員を辞めて民間へというのは分かるが、自治体から自治体へ移動するといった例があると聞いている。本人からではないが原因を聞くと、例えばモチベーションが持てないとか、いろいろな理由があるようである。非常に憂慮すべき問題だと思っている。これから浜田市を支える若い職員が、短いサイクルの中で辞めていく。しかも民間ならまだしも自治体へ行く。その辺をどのように考えているか。

○総務部長

近年、経験者枠という形で採用する方も多くなっている。そういった中で、おっしゃるように辞めた職員がよその自治体に採用されるケースもあるし、逆によその自治体職員がうちに来ている場合もある。それはいろいろな事情があると思う。

私が勤め始めた頃は、浜田市に住んでいたり親族がいたりというのがある程度の条

件になっていたが、今は完全にオープン参加なので浜田に生まれ育たなくても試験を受けて採用している状況である。5年10年勤める中で、両親の高齢化によって帰ろうかといったとき、経験者、特に行政経験者は喉から手が出るほど欲しい人材になる。

一生勤めるといのがだんだん少なくなっている中で、これは公務員に限らず民間企業でもそうだと思うが、価値観が多様化している。公務員から民間へ行く人、あるいは県や国へ行くケースもある。その反対もある。その中でいろいろな人材を確保しながら進めていかなくてはならないという考えである。

○牛尾議員

説明がよく分からない。結果としてよその自治体から入る職員もおられるかもしれないが、現実そういう流れになっている。公務員をやりながらダブルキャリアというか、ある程度の枠が認められているような時代になっている。定年まで浜田市にしがみつくと考えでなくても。その職の中にやるべき価値、モチベーションといったものは絶対必要だろうと思う。そういう価値観教育はどのようにされているか。

○総務部長

価値観教育、もちろん面接の際にはそこに非常に重点を置いて話を伺う。なぜ公務員になりたいか、なぜ浜田市役所に入りたいかをしっかり聞かせてもらっている。入庁するといろいろなところで研修もある。市独自の研修もあるし、ほかの機関もある。市独自研修のときには、こういう考えでこのように仕事をするとところなのだという話を、私も講師としてそういう話をする。

価値観そのものもだが、今はスキルの問題があったとき、例えばコンピューターあたりの非常に高いスキルを持っている方はもっと生かせるものがあるのではないかという方もいる。いろいろな方がおられる中で、我々の仕事を一番支えているのは、公務にあるという自負と責任だと思う。そこを折に触れて研修でも話すし、採用時の訓示として市長も副市長も必ず話すようにされている。

○牛尾議員

もう1点伺う。先ほど国家公務員の初任給アップ等が発表されたが、浜田市の初任給にしても民間金融機関に比べて4、5万円安いという現状である。給与はモチベーションの一つになると思う。地方自治体としての浜田市も国に倣ってそういうことを導入される予定を持っているか。

○総務部長

基本的には今まで人事院勧告に基づいて給与決定をしてきているので、今特段新たに何かという計画はないが、先日人事院勧告が出た。これからしっかり踏まえた上で給与決定していきたい。

○牛尾議員

給与は上げられるならどんどん上げてほしいと思う。それはモチベーションの柱の一つになると思うので、ぜひ前向きに努力してほしい。

○笹田議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(4) 附属機関等の見直し(案)について

○笹田議長

総務部長。

○総務部長

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

(「なし」という声あり)

(5) 浜田市まちなか交流プラザの運用開始について

○笹田議長

地域政策部長。

○地域政策部長

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

(「なし」という声あり)

(6) 石見交通路線バス有福線の路線廃止に伴う再要望及び今後の対応について

○笹田議長

地域政策部長。

○地域政策部長

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

○小川議員

この問題については6月定例会議の中でも少し質問した。有福線の廃止については基本的に存続を求めて市長自身が石見交通の社長に会って要望すべきではないかという質問に対して、市長は、とりあえず減便してでも存続ということで会社に伝えているから、その回答を待って、必要があれば行くという回答だったと思う。再要望をして回答が来たわけだが、この回答は浜田市側が要望した内容と一致した内容なのか、あるいは不満だったか。その辺も含めて回答についてどう判断されているか聞きたい。

○地域政策部長

まず廃止期日はおおむね要望どおりの内容かと思っている。当初は今年度10月1日から廃止する予定のところを、こちらの要望も酌んで4月1日まで延ばしてもらった。その中で、土日祝日について減便として3月末まで運行を続けるとの回答があった。

調査の結果としては、休日の利用が非常に少ない状況にある、中には乗車ゼロの便もあったことを考えると、おおむねこちらの再要望に沿った回答に近かったのではないかと考えている。

○小川議員

要望した内容とほぼ一致しているとのことで、書かれているように来年度末をもって廃止は仕方ないというのが市としての考えか。また、回答を受けて、行くかどうかは市長が判断されるとのことだったが、この回答をもって、行く必要はないと判断されたのか。

○地域政策部長

内容的には、石見交通側の最初の申し出から考えると、結果的には仕方ないのかと考えている。それからこちら側の再要望の内容がある程度充足された回答だったので、今回については再要望をもって、地元にもそういった回答があるので、地元から要望が出ているので、今後はそういったものについて対応していく考えである。

○久保田市長

市長から直接石見交通の代表者に申入れしてはどうかと、以前からも提案をいただいている。実際7月に面談した。やはり減便してでも継続してほしいというところまで伝えたものの、難しいとの回答だった。経営方針もあるということで。

来年3月末をもっての廃止は、やむを得ないと判断している。ただ、地元民の利便性確保のためにも代替方法を早急に検討しなくてはいけないと考えている。

○小川議員

6か月前の事前届け出というのが道路運送上決められているが、この回答を受けてそれぞれの自治体の反応を見た段階で、石見交通とすれば9月中には事前届け出を行っていくという流れなのか。

○地域政策部長

具体的に9月中に手続きするといった言葉は聞いてないが、この回答を実施しようと思えば、議員が言われたようなスケジュールになると思う。

○小川議員

経営的な部分も含めて難しいとの事情があると市長は言われたが、結局表に出ているのは利用者減少と慢性的な運転士不足の二つを言われている。住民説明会も10か所で開かれてきたが、この二つの状況は全く変わっておらず、今後も利用者が少ない便の廃止や減便となっていく可能性もあるし、これは単に石見交通だけの問題ではなく、全国の路線バス会社の共通問題となっている。何の解決にもなっていないように思う。私がいろいろ聞く限り、運転士が5人確保できれば有福線を廃止せずに済むが、いくら経営努力してもその5人が確保できなかったということで、致し方なく廃止せざるを得なくなったと聞いている。会社としてはこれ以上努力してももう無理だとなった場合、この問題について行政として何らかの考え、改善策は検討されたのか。

○砂川副市長

有福線以外の今後のこともあるので、その辺は危惧している。交通対策は島根県地

域振興部が所管しており、私も部長等とも協議している。なかなか運転士が確保できないとなると有福線以外。石見交通は大田以西の県西部全てを所管しているので、当然浜田市以外への影響もあるのではないかとということで、県ともしっかり連携して浜田市だけでなく4市、ほかの町も含めて連携して取り組まねばならないということで、4市の副市長とも協議している。今後こういうことがどんどん進まないように。

石見交通も運転士の新規募集等いろいろやっている。例えば二種免許取得の際の支援など、いろいろやっておられるがそれでもなかなか対応できない。先般テレビや新聞では一畑バスも減便されているとのことで。これは石見交通だけではなく全国的に運転士不足をどうするかはしっかり県や国とも協議して対応しなければと考えている。

○小川議員

副市長が言われるように恐らく全国的な問題なので、そう簡単ではない。全国の状況を見ても長年赤字が続いている路線バスなどを抱えている会社もたくさんあると聞く。これ以上会社の責任とするのはもう無理だという状態の中で、廃線あるいは減便されている全国的な状況を見て、自治体として何らかの判断をしなければいけない時期に来ているのでは。民間の一事業者という位置付けもあるが、これが日本全体、特に中山間地・過疎地の公共交通を担っている事業者にとって共通の問題となっているので、ぜひその点は力を入れて今後も検討をお願いしたい。

○笹田議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(7) JR西浜田駅舎の更新、ホーム待合所の撤去等について

○笹田議長

地域政策部長。

○地域政策部長

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

(「なし」という声あり)

(8) 周布橋整備事業について

○笹田議長

都市建設部長。

○都市建設部長

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

○肥後議員

周布橋近辺の住民にご迷惑が掛かっているという声は私にも当然届いている。延びるのは致し方ないとの声を私も住民からいただいている。しかしながら、今周布橋下部の埋まっている左右部分の撤去を、出水期が終わり次第1日でも早くできるようになれば。物流が滞って何もかも延びている状況を鑑みると、工期が延びることは分かっている方が多数だと把握している。撤去工事と、それに伴って架け替えに係る工事を1か月でも早くできて、次の出水期までに7、8割完成まで行ければ工期が短くできるのではないかと思うので、設計等も含めてさらにより良くできないかといま一度申し上げる。

○都市建設部長

地元の方には大変迷惑を掛けています。役員の方を中心に説明会について相談させてもらっているので、その辺も丁寧に説明していきたい。下部工事は家等も隣接しているので、撤去等と設置はできるだけ間を空けずしていきたいと思っている。並行して上部の工事は早目に発注して、少しでも工期が短縮できる努力は業者含めてやっていきたい。

○岡本議員

橋については理解した。上水道関係の配管が、この断面に接続させられるのではないかと思っていた。計画はどうなっているか。

○都市建設部長

この橋梁に上水の管を通すように協議している。併せてNTTの線もやっていくということで、双方の事業者と調整している。

○岡本議員

であればここに図示も必要だろうし、多分歩道あたりがその接続部分だろうと思う。そういう意味も含めて、断面に図示をお願いしたい。

○都市建設部長

基本的には事業者それぞれの負担もある。本来は橋梁だけの図面ということで今回示した。添架するに当たっては上水とNTTの管も含めた構造計算もあるので図面等はできている。それはまた示せればと思っている。

○笹田議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(9) 浜田郷土資料館建替え整備について

○笹田議長

教育部長。

○教育部長

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

○川上議員

今回アンケート、全体で80%という答えのようだが、これはあくまで現地を見学された方の81%であり、市民の80%ではない。本来市民の意見を聞こうとすると、5万人に対して380人くらいのアンケートを取って50%の回答でおよそということになるかと思う。したがって市民全体としての回答でないことは確認いただきたい。ここですぐ建て替える方針にすることが本当に市民の総意かどうかについては、どう判断しているか。

○教育部長

アンケートの意見としては少ないという意見も当然あろうが、得られた意見としては有効なものだと考えているし、やはり現地を見ていただいた方は建て替えが必要だと、それが印象、つまり答えだろうと判断している。一旦立ち止まったところで見学会を実施し、その結果で81%の方が「整備が必要」という部分で、次のステージへ進んでいこうと、立ち止まったところから歩き出す段階に進んでいこうというのが現状なので、その点だけは理解いただきたい。

○川上議員

建て替えが必要でないというのが私の意見ではない。あくまでも市民全体としてはどうなのかと。二つ目の質問だが、資料館をご覧になり、どれだけの資料、どれだけのボリュームがあることを市民に理解してもらえたのか。

○教育部長

若い世代は価値についてはなかなか理解が薄い部分があろうかと思うが、年代が上がるにつれて資料価値の理解は深いのだろうと考えている。若い世代の理解が薄いところについては、新しく整備したところでソフト面で若い人たちへの教育として、浜田市の郷土資料、歴史を知ってもらおう。そういう手段を講じた中で認識が造成される必要があろうと考えている。

○川上議員

いみじくも、電子的資料の提示という話があった。しかしその前に、昨年から私が言っているように、あちこちに分散している資料を整理されたのか。6月定例会議の一般質問では、やっているという話だったが、有福中学校の資料について、窓を開けて中を整理されたか。KDDの資料については、ごみを整理したか。

○教育部長

文化財、資料については計画を作っているが随時整理していく必要があろうと考えている。ただ、人手の問題もあるし業務の数もあるので、できるところからやっていく状況である。今年度に地域おこし協力隊2名というのもあって、図書館に置いているものについては整理を進め、なおかつ図書館だけでなく先ほど議員が言われたような文化財の保存管理、整理まで、今後計画的に手を広げていくようにしていければと考えている。

○川上議員

私は今後の話を聞いたのではない。昨年質問してから今年も6月に再質問したら、

やっていると回答があった。だからどうされたかと聞いている。

○教育部長

なので、随時できる限りのところで進めている。文化財の整理については。

○教育長

今の川上議員の質問は、KDDや有福小学校に保存している資料がどうなっているのかということである。こちらの資料については学芸員などが出掛けているし、その中で特に、老朽化で雨漏りするような施設に保存している状況や、周囲に川が近い状況のままではいけないということで、新しくそれらを移す場所についても検討を始めている。その施設の目録作りについては、今は図書館に地域おこし協力隊に来てもらっているが、9月からさらにもう1名協力隊が増えるとのことなので、今保存している資料についてもまた確認を進めていく。実際に資料の突き合わせなどが今できているかということ、まだその段階にはない。ただ現場に行って資料が傷んでいかないような配慮はしている。それから新しい人たちの協力もいただきながら、これから整理していく。その準備を粛々と進めている。

○川上議員

準備を粛々とのことだったので、建て替え整備についての報告事項の中に、1番は整備を推進しとなっている。違う。本当は1番は、現在の資料を整備しボリューム等を調査する、そして本当に必要かどうかをしっかりと調査した上で、今後具体的な建て替え整備を推進するという形になろうかと思う。順番が違う。1番は今ある資料について。2番は今後の整備についてだと思う。はき違えないようにしてほしい。理由は先ほど言ったように、その中に資料を展示するなら、展示すべき資料をしっかりと整理するのが先だろうと言っている。よろしいか。納得できないか。それとも違うか。

○教育部長

いわゆるハード整備部分とソフト部分だろうと思う。当然両方大事だと思っているし、ソフト部分を先行してやっていくことも当然必要になってくると考えているが、ただ、資料の整備が全部できないとハードの議論ができないということではなかろうと考えている。両方平行して進めることも重要かと思う。

○教育長

郷土資料館の建て替え整備を推進するという意味は、現在の資料館の中に収蔵スペースも十分でない多くの資料が本当に突っ込んであるような状況であることを踏まえ、きちんと維持管理して活用していくために新しい施設も必要ではないかと考えている。今後資料をどのように有効に保存し活用していくかは、今後施設のハードやソフトにも関わることだと思っているので、どのような建て替えを目指していくかしっかりと整理していきたい。

なお市長からも、現在の文化資料の整理に関してはきちんと進めてもらいたいという指示もいただいているので、これも対応していきたい。

○川上議員

最後になるが、ハードとソフトという話があった。ハードを造るためにはソフトが

しっかり調査されてないとハードはできない。同時並行で進めることは絶対にできない。ソフトがある程度進んでからでないとハードについては考えることができない。その辺については最後にしておく。

○牛尾議員

立ち止まって考えるというところから歩み出すという発言があった。3年くらい前か、私は一般質問で、世界こども美術館と資料館の合築を提案した。その案もまだ生き残っているのかなと感じる。最近、世界こども美術館を利用されるいろいろな保護者に聞くと、世界こども美術館は絶対残してほしいと。熱心な方が相当数おられると考えたときに、私が折衷案で合築を提案したのはやはり、大きな箱物を二つも残すと大変だろうと、あえて提案したのだが、その案に沿ってある程度計画は進んだという途中経過があったが、その案は現状生きているのか。

○教育部長

立ち止まって考えているので、白紙にしたわけではないので、その案は生きていると考えている。世界こども美術館との併設については、いわゆる単独建て替えよりも事業費やランニングコストが有利だという、複合化の視点で重要なのだろうと考えている。その辺も含めて今後具体的などころに歩んでく段階に入ろうという考えである。

○串崎議員

全体で81%のアンケートということで、一応建て替え整備を推進すると具体的に書いてある。この81%の中には、既存施設を使ってという意見もあった。既存施設の活用については記述がないが、その辺はどうか。

○教育部長

現状施設の老朽化という問題があるので、現状を直した部分で長期的な使用に耐えられるかという問題は当然あると思うし、面積の問題等もあろうかと思う。説明会での意見も当然踏まえながら、具体的にどうするか。現状、教育委員会としては建て替え整備が必要だろうと考えているが、今まで検討した内容、見学会でも収蔵庫が狭いなどいろいろな意見がある。議会からいただいているデジタル化問題、アーカイブの問題など、そういうのも含めてどういう形がより適切かを念頭に置きながら検討を進めていきたい。

○笹田議長

ほかにないか。

(「なし」という声あり)

(10) その他

○笹田議長

執行部からほかに報告事項はあるか。地域政策部長。

○地域政策部長

WBC日本代表元監督の栗山英樹氏をお迎えし、8月20日に浜田市人づくり特別講演会が開催される。応募状況について事務局の山陰中央新報社から連絡があったので

報告する。最終的な応募者数は1625名、うち市内在住者は1254名だった。当選者には通知を送り、外れた方のうち市内在住者についてはパブリックビューイングのご案内をさせてもらった。なおパブリックビューイングの会場については、先日の総務文教委員会では島根県立大学の大講義室とコンベンションホールを予定していたが、現地で確認した結果、コンベンションホールは電波が途切れる可能性があるとのことで、中講義室に会場を変更してご案内している。

○笹田議長

ただいまの報告について質疑等はないか。

(「なし」という声あり)

ほかはないか。

(「なし」という声あり)

では、以上で議題1を終わる。暫時休憩する。

[11時 05分 休憩]

[11時 12分 再開]

○笹田議長

全員協議会を再開する。

2 行政視察レポートについて

(1) 総務文教委員会

○笹田議長

先般、総務文教委員会と福祉環境委員会が行政視察を実施した。それぞれの委員会
が視察先で得た先進的な取組や知見等を、行政視察レポートとしてまとめたので順に
説明してもらおう。執行部におかれても聴講をお願いしたい。まず総務文教委員会、永
見委員長から願います。

○永見議員

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

ただいま説明があった。議員から質疑等はないか。

(「なし」という声あり)

(2) 福祉環境委員会

○笹田議長

福祉環境委員会、村木副委員長願います。

○村木議員

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

説明が終わった。議員から質疑等はないか。

○川上議員

3-2の調査事項の中に「『この相談内容はうちじゃない』の対応は厳禁」とある。こういうことも含めて誰も取り残さないための福祉環境と思えば、浜田市においてもこういう言葉が出ない形で行政運営をしてもらいたいと思うが、それについては今回の考察にはなかったのか。

○村木副委員長

あえて赤字で書いてある。今回の考察にももちろんこういった方向性の提言など、今日この後委員会があるが、その辺も協議していきたいと思っている。

○笹田議長

ほかはないか。

(「なし」という声あり)

永見委員長、村木副委員長の説明に感謝する。また執行部におかれては今日聞いた説明で参考になるものがあればぜひ委員会とともに実施していただけるよう要望しておく。

3 議会改革に関する検討結果について

(1) 第3回報告 議員選出監査委員の廃止について

○笹田議長

資料を見てほしい。

(以下、資料を基に説明)

以上が特別委員会の検討結果報告だが、これらの内容についてはこれまで各会派から十分な意見を踏まえて検討協議されてきた中身なので、皆もご承知おきのことと思う。議会全体に関わることであるため、改めてこの場で議員に了解と共通認識を持たせてもらった。よろしく願います。

○大谷議員

2の項目には改善点があったが、1番・3番はこれまでの認識と同じということによるしいか。項目の2番について、①から③まで改善点の指摘があった。これはこれで良いのだが。1番・3番については、これまでの認識と変わらないということか。

○笹田議長

大きい1番と大きい3番のことか。その部分は今までどおりだと認識されて構わない。

○大谷議員

3番で監査委員の専門性と経験の確保、これは当然なので。その中で監査業務をしていくわけだが、一人の方が同じ監査をしていく。多様に見ていかれるとは思いますが、見る角度がその方の角度になるので、時に応じて違う角度から見えないと本当の監査にならない可能性もあるので、4年は原則としながらも状況に応じては議会の話の中で論議していく部分もあろうと思う。固定的な観点での話は私としてはいかがかと思っている。

ついでに言えば、議員が改選され、仮に同じ方がまた監査委員になったとすると8年務めることになる。8年となると長い。多様な観点で全体の監査をするという視点からすると、あまり年数にこだわると違う弊害も出る可能性がある点を指摘しておく。

○笹田議長

これは特別委員会で決まったことの報告をした次第なので。一意見として承っておく。ほかにないか。

(「なし」という声あり)

4 地域井戸端会における回答について

○笹田議長

配信した資料を見てほしい。

(以下、資料を基に説明)

この件について、議員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

ではここで執行部は退席されて構わない。

(執行部退席)

5 その他

(1) 自由討議について

○笹田議長

議員間で自由討議を行いたい案件があるか。

(「なし」という声あり)

今回は自由討議なしとする。

(2) その他

○笹田議長

議員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

では私から1件ある。先日、7月7日に石見四市市議会議長会が設立された。この件について7月12日に皆にメールでお知らせした次第である。この件について連絡が遅くなってしまったこと、誠に申しわけなかった。全員が集まる機会がここまでなかったので説明ができなく、今日ここで説明させてほしい。

西田議員が議長するときにも何かしらアクションがあり、4市でいろいろ協議を行ってきたところではあったと認識している。今回、県の議長会にて各議長と副議長が協議したところ、東では協議会が存在しているが、石見4市ではそういった会がないとのことで。今日は石見交通の件もあったが4市で取り組んでいくことも必要ではないかという案件について協議する場をぜひ設けたいとの意見が一致した。皆に説明が遅れたのは、4市のこともあるので決定してから説明しようという意図があった。遅く

なってしまったことは申しわけない。

まず目的としては市政等に関する共通課題を調査・協議し、石見地方の活性化に寄与するとともに、相互の連携交流を図ることを目的としている。この目的を達成するために協議を三つ考えている。一つ目に「市政に係る課題・懸案事項について」、二つ目に「議会運営に係る課題・懸案事項について」、三つ目に「4市議会の情報共有及び交流について」、この3点について協議することになっている。

まず1回目の開催は11月に大田市で開催することが決定されていることを報告しておく。これについて何か質問等があるか。

○大谷議員

今の口頭説明に関する資料はないのか。

○笹田議長

会則などのことか。

○大谷議員

このようにすると書いたものの提示はないのか。

○笹田議長

今のところ口頭で説明させてもらった。

○大谷議員

議会は合議体なわけで、全体が情報共有して同じ意識に立つようにすべきなので、言った・言わないで誤解を生じてはいけない。こういう決まり事や取り決め、申合せなど、なされたことについては書面で、すでに決まっていることであれば提示していただき、共有して同じ意識で進めていただきたい。

○笹田議長

承知した。会則などがあるので、また皆に配信したい。11月に開催されるので、そこで出た意見は、必要であればまた皆に報告したい。それでよろしいか。

○大谷議員

もう1点。論議されることは大変良いことだと思う。浜田市として上げていかなければいけないような事柄については、例えば会派代表者会議などである程度、議長団としての意見集約等もしてもらいながら、我々の声ができるだけ全体に伝わるようなことも意識してもらえるとありがたい。

○笹田議長

はい、そのようにさせていただこうと思う。11月に開催される前に会派から意見を伺って、議会の協議案件ということで上げたい。

○牛尾議員

もともと県下8市の勉強会は最初の頃は野球をやっていた。それがいわゆる公費の関係で中止になり、その後勉強会になった。何度目かのときにどこかどこかの市がぶつかって紛糾し、それで終わった。平成19年か20年頃ではなかったか。もともとそういうことがあったので、しっかりやってもらいたい。

○笹田議長

ほかはないか。

(「なし」という声あり)

ないようなのでこの件は終了する。最後に1点事務連絡である。

○下間局長

決算資料の購入について資料を見てほしい。

(以下、資料を基に説明)

○笹田議長

議員は今の説明についてよろしいか。

(「はい」という声あり)

以上で全員協議会を終わる。

[11時 47分 閉議]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

浜田市議会議長 笹 田 卓